

一般質問通告表

1.

14番 日域 究 議員

質問形式 一問一答

義務教育における「個別最適な学習」を推進しましょう

前市長は、学校のハード面の充実を見事に成し遂げました。新市長には、ソフト面の充実を期待します。

20年前、法的に市長は教育分野には口を出しにくい環境でした。しかし、状況は変わりました。市民に選ばれた市長が市の教育に口が出せないこと自体、本来あり得ないことです。

全国に先駆けて、個々の児童生徒学力の定着に責任をもつ義務教育を、大竹市の看板政策にして市の魅力として売り出しましょう。そして、全ての大竹っ子を幸せにしましょう。

2.

4番 豊川 和也 議員

質問形式 一問一答

大竹市住民投票条例の抜本的改正（永住外国人の投票権削除）

新市長は、現在も永住外国人に住民投票の投票資格を認め続けることが適切だと考えますか。また、前市政の判断をそのまま踏襲するのではなく、投票資格者を日本国民に限定することも含め、条例の見直しに着手する考えはありませんか。

新市長の市政運営について

市政には継続性も必要ですが、一方で、市長が代わった以上、前市政の方針をそのまま踏襲するだけではなく、新市長自身の判断で見直すべきものは見直す姿勢も必要だと考えます。

そこで伺います。市長は、前市政が進めてきた政策や制度について、必要であれば見直し、変更する考えはありますか。

大竹駅西口の交流広場について伺います

この広場は、約1億6,200万円をかけて整備され、今年3月から利用が始まりました。

しかし、これまでの利用実績はわずか2件で、令和8年8月1日現在、9月以降の予約も現時点で1件と伺っています。

せっかく多額の費用をかけて整備した広場です。つくって終わりではなく、市民や民間事業者に積極的に利用していただくことが重要だと考えます。

現在の利用実績について、市長はどのように受け止めていますか。

また、イベント開催の働きかけや利用方法の周知、民間事業者との連携など、今後どのように交流広場を活性化していく考えなのか、新市長の方針を伺います。

投票率向上に向けた取組について

令和8年6月14日に執行された大竹市長選挙及び大竹市議会議員再選挙・補欠選挙の投票率について、市はどのように分析しているのか伺います。

選挙は、市民が市政に意思を示す重要な機会です。今回の投票率を踏まえ、特に若い世代をはじめ、より多くの市民に選挙へ関心を持っていただくため、現在行っている啓発活動の効果を検証するとともに、SNSを活用した情報発信、主権者教育、期日前投票の利便性向上など、新たな取組を検討する必要があると考えます。

今後、投票率向上に向けてどのような取組を進めていく考えか伺います。

3.

10番 中川 智之 議員

質問形式 一問一答

稼ぐ観光政策の必要性について

質問1 宿泊の位置づけについて

観光消費の大半は宿泊を伴う滞在によって生まれ、市にとっても重要な要素であると考え。そこで、観光振興を進めるうえで、市として宿泊の必要性をどのように認識し、行政としてどのように位置づけているのか伺いたい。

質問2 観光ストーリーと資源の編集方針について

本市は、宮島・岩国という全国区の観光地に挟まれた立地にあり、大竹和紙、瀬戸内の景色、歴史資源などを束ねた観光ストーリーを構築する必要があると考える。これらの観光資源について、市としてどのような編集方針を描いておられるのか伺いたい。

質問3 民間が稼ぐ観光の仕組みについて

民間事業者が収益を得る仕組みとして、体験型観光や土産開発など、いわゆる「稼ぐ観光」の戦略を構築することが重要であると考え。市として、民間事業者が観光を通じて収益を得られる仕組みをどのように考えているのか、具体的な方向性を伺いたい。

4.

6番 岡 和明 議員

質問方式 一問一答

玖波青木線立戸2～3丁目隘路の改良の見通しについて

去る4月に自転車の青切符制度が導入され、自転車の歩道通行は通行区分違反として反則金の対象になりました。自転車が安全に走れる道路整備はいつそう急務になっています。

特に市内随一の幹線道路である玖波青木線では、立戸2～3丁目隘路^(*)の安全確保は緊急の課題です。見通しを問います。

(*) 立戸郵便局前三叉路～立戸配水池下丁字路の300メートル

玖波青木線の立戸2～3丁目隘路に並行する線路脇の公衆道路用市有地（長さ500m）の自転車歩行者道（自歩道）活用について

玖波青木線の立戸2～3丁目区間で自転車・歩行者が危険にさらされている問題に関連して、ちょうど隘路に並行して山陽本線脇に幅4メートル、長さ500メートルもの公衆道路用の市有地があります。

これを自歩道として活用すれば、危険な隘路問題が大幅に緩和します。加えて、小方橋から大竹駅まで2キロにわたって自転車が安心して通れる道^(*)が用地買収なしに実現します。見解を問います。

(*) 小方橋～線路脇自歩道～公衆道路用市有地～立戸新開第1踏切山側～市民スポーツ広場前～消防署前～みどり橋下～線路脇道路～大竹駅

5.

8番 末広 天祐 議員

質問方式 一問一答

地域経済の好循環に向けた企業支援について

市長は所信表明で、地域経済の好循環に向け、今ある雇用を守るための地域企業支援の強化を掲げている。本市の基幹産業である化学・製紙コンビナートでは大手立地企業による事業再編の動きがみられ、市内中小企業でも経営者の高齢化と後継者不在が課題となっている。

そこで、地域企業の支援強化と雇用維持に向けた具体的な方策及び商工会議所との連携を深化させる考えについて、市の考えを問う。

豪雨時のアンダーパスの危機管理について

豪雨時における危機管理について、近年、全国各地で、これまでの経験や想定を超える豪雨が頻発しています。本年8月には千葉県で記録的な豪雨が発生し、道路の冠水などにより多数の車両が立ち往生し、死者も発生しました。また、石川県、富山県、福井県でも24時間雨量が300ミリを超えるなど、甚大な被害が生じています。

近年の豪雨災害は、山間部での土砂災害や河川氾濫だけでなく、短時間に猛烈な雨が降ることで排水能力を超え、都市部でも内水氾濫や道路冠水が発生することが特徴です。特にアンダーパスや地下道では、短時間で危険な場所へと変わる可能性があります。

本市では内水ハザードマップが作成されていますが、近年の状況を踏まえ、現在の想定を超える豪雨にも備え、市民の生命を最優先に守るため、外水・内水を問わず、本市の危機管理体制を改めて検証し、強化していく考えがあるのか、お伺いいたします。

シティプロモーションの推進について

今回、本市が策定を進めている観光振興計画と関連して、今後の大竹市の情報発信、地域ブランドづくり、交流人口・関係人口の拡大、さらには移住・定住にもつながる「シティプロモーション」について、伺います。

本市の観光入込客数は、2019年の47万人から2024年には38万5,000人へ減少する一方、県外客の割合は19.4%から34.5%へ、宿泊者数は6,258人から4万2,000人へと大きく増加しています。しかし、1人当たりの観光消費額は976円と、県平均の9,141円を大きく下回っています。一方、大竹市には、海、山、歴史、産業、食、下瀬美術館など、多くの魅力ある資源があります。

重要なのは、「ないものを探す」のではなく、「あるものをどうつなぎ、どう発信し、大竹市というブランドにしていけるか」ではないでしょうか。観光振興が「大竹に来てもらう」取り組みだとすれば、シティプロモーションは、「大竹を知ってもらい、好きになってもらい、訪れ、関わり、さらには住んでみたいと思ってもらう」ための、まち全体の魅力を発信する取り組みです。

近隣市での先進事例を参考にしつつ、本市においても、観光振興計画を単独で終わらせるのではなく、シティプロモーションと連動させ、大竹市全体の価値を高め、交流人口・関係人口、さらには移住・定住へとつなげていく戦略が必要と考えます。

大竹市まちづくり基本構想について

大竹市まちづくり基本構想は、大竹市のまちづくりを行う上での最上位に位置付けられているまちの将来像です。この構想をもとに、各期の基本計画や実施計画が策定されています。また、地方創生総合戦略や国土強靱化地域計画とも横断的に関係づけられており、まさに大竹市の全ての施策の根幹となるものです。

基本構想は期間を設けておらず、将来にわたっての理念としての性格が顕著であるため、毎日開いて確認されるというものでもありませんが、各部署でいつでもすぐに手に取れるよう配置されていてしかるべきだと考えます。

①市長として任期中、常に意識しておいていただきたい構想ですが、福田市長がこの構想に触れられて持った所感をお聞かせください。

②毎年新たな職員さんが入庁されご活躍くださっています。理念というのは具体的な計画と比べると、なかなか血肉になりにくいものだという認識があります。基本構想についての研修はどのように行っていますか。

③市内小中学校において、これまで基本構想は郷土教育の教材として活用され、しっかりと子どもたちの学習に溶け込んできたと思われま。

一方で、公共施設のロビーで最近あまり見かけなくなったような気がしています。策定発行当初はどこの公共施設にも置かれるなど市民の身近にあり、いつでも閲覧・持ち帰りできていたように記憶しています。

私がよく探せなかっただけなのか、単純に在庫が尽きたからなのか、各施設職員の関心が薄れたからなのか。何かほかの理由があればご説明ください。

合わせまして、市民が基本構想を知っておく、理解しておく事の必要性はどの程度のものと考えておられるか、あらためてご紹介ください。生涯学習、企画広報、自治振興など、それぞれの立場でアプローチが変わってくると思いますのでその辺りを踏まえてお話しただければありがたいです。

8.

13番 山崎 年一 議員

質問方式 一問一答

福田市政の将来像と観光を含む「好循環」について問う

7月14日の所信表明で「観光産業」に触れられました。今後10年後20年後の大竹市をどのようなまちにしていこうと考えていますか。

また、その将来像に向けて「人・暮らし・経済」の「好循環」をどのように優先して取り組みますか。

所信表明で言及された観光を、地域での消費や交流、地域経済の活性化にどのようにつなげていこうとしておられるのか問います。

小方地区のまちづくりと土地利用について問う

人口減少が続く局面で、市役所に隣接する「本市屈指の一等地」4.6ヘクタールを30年50年先の大竹市のためにこれまでの計画を一度立ち止まり都市全体の将来像から再検証されるべきではないかと考える。

小方地区の将来を見据えた開発について市長の考えを問います。

小方新駅について問う

小方新駅構想について、市長は現時点でどのように受け止めていますか。

また、その必要性や実現可能性について何うとともに、今後、どのような考え方で判断されるのか問います。

スポーツ・体験型道の駅について問う

「道の駅に一定の経済的効果がある」ということと「この貴重な土地に、道の駅を整備することが、最も有効なのか」ということは分けて考える必要があります。

中学校跡地は本市の一等地に位置しています。道の駅なら国交省が買ってくれるという安易な発想でなく大竹市の将来を左右する貴重な財産と考える。今後の方向性について問います。

新町雨水排水ポンプ場について問う

都市計画決定から約50年が経過しても実現していない新町雨水排水ポンプ場について、市長はこの現状をどのように受け止められていますか。

現状の問題点と、今後の事業化に向けた取り組みを問います。

5歳児健康診査の実施と就学前からの切れ目のない支援について

5歳頃は、基本的な生活習慣や社会性が育つとともに、こども園や幼稚園等での集団生活を通して、子どもの発達上の特性や生活上の困りごとが見えやすくなる時期です。一方、3歳児健診から就学時健診までには期間が空くため、この時期に子どもや保護者の困りごとを把握し、必要な支援につなげる仕組みが重要です。

国は、出産後から就学前までの切れ目のない健康診査体制の整備に向け、5歳児健康診査の費用や実施体制を支援し、全国展開を進めています。また、健診後の支援につなげるため、関係機関による連携体制の整備も求められています。広島県内の各自治体においても、5歳児健康診査の実施や導入に向けた取組が進められています。

5歳児健康診査は、健診の実施自体を目的とするのではなく、子どもの特性や成長を適切に捉え、保護者への相談、療育や発達支援、円滑な就学支援につなげることが重要です。

本市における5歳頃の子どもの状況把握と支援体制、関係機関の連携に関する現状と課題、5歳児健康診査の実施に向けた検討状況及び今後の考えについて伺います。

晴海臨海公園の将来像と魅力向上について

- ・第三期整備が完了した晴海臨海公園について、今後どのような公園として育てていくのか、市としての将来像について伺います。
- ・今後の小方地区のまちづくりにおいて、晴海臨海公園をどのように位置づけ、さらなる魅力向上をどのように図っていくのか、伺います。
- ・真夏でも子どもたちが安心して遊べる環境づくりとして、予定されているミストボールの設置に加え、噴水やジャブジャブ池など、水に触れて遊べる設備の整備について、検討する考えがあるか伺います。

三倉岳施設の利便性向上と飲食提供の充実について

- ・施設の老朽化対策やバリアフリー化、シャワー設備の整備など、観光客が安心して快適に利用できる環境づくりについて、今後どのような方向性で整備を進めていくのか。
- ・現在提供されているコーヒーに加え、軽食や食事などを提供できる環境づくりについて、指定管理者や地域の事業者などと連携し、今後検討していく考えはあるのか。

阿多田島の地域資源を活用した観光振興について

- ・阿多田島の漁業、養殖、加工、海上釣り堀、ブランド魚、自然・景観などの地域資源について、市としてどのように評価し、観光資源として活用していくお考えか。
- ・商工会議所が取り組んでいるチャーターデイクルーズなどの観光事業について、今後、市としてどのような支援を行っていくお考えか。
- ・「あたたハマチtoレモン」や「広島レモンサーモン」などのブランド魚を、大竹市の新たな「食」の観光資源として活用していくお考えはあるか。
- ・海上釣り堀で釣った魚をクーポン券などで買い取り、そのクーポンを市内で利用できる仕組みについて、市として調査・研究に着手するお考えはあるか。

11.

15番 細川 雅子 議員

質問方式 一問一答

一人も取り残さない「伝える」「聴く」について市の現状と課題について

障がいのある方々が自立した生活をして、それぞれの個性を発揮し社会生活を営むためには、情報取得や意思疎通ができることは極めて重要だと考えられている。

国は令和4年（2022年）に「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律（障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法）」を施行した。法には国及び地方公共団体（市）が取り組むべき基本的な施策が定められている。

法施行4年になるが、市の施策の現状と課題について問う。

手話言語条例施行後、本市教育委員会の受け止めと施策と課題について

昨年（令和7年）は、手話を言語と定める法令が国、県、市で定められた。本市では昨年9月30日に公布されている。

条例を定めてちょうど1年。市教育委員会における施策の推進の状況と今後の課題を問う。

12.

5番 山代 英資 議員

質問方式 一問一答

公共交通（デマンド型乗合タクシー・バス）について

私が暮らす白石地区は、高齢者を含め約700世帯、1,500人が生活する地域です。本年5月から、デマンド型乗合タクシーの運行が始まりました。これは、「玖波七・八丁目」・「湯舟・玖波四丁目」・「三ツ石」・「御園台」・「栄地区」に続く、市内6例目の取り組みです。

福田市長は「安全で安心して暮らせるまちづくり」を公約に掲げ、移動手段の確保と利便性の向上を示されています。

一方、中山間地域だけでなく、元町・本町・新町地区からも公共交通の確保を求める声が多く寄せられています。

市民の移動手段を確保するため、これらの地域の公共交通の充実に、今後どのように取り組まれるのか、市長のお考えをお尋ねします。

市内小中学校の安全管理マニュアルについて

7月にアゼリアおおたけで開催された市民イベントにおいて、緞帳の樹脂製滑車の一部が破損し、落下するという事故が発生しました。かなり大きな音がしましたが、幸いにもけが人はなく、イベント自体も中断することなく、そのまま継続されました。

機械設備については、点検時に異常がなかった場合でも、その後、予期せぬ故障や破損が発生する可能性があります。そのため、日頃からの点検や安全確認に加え、万が一事故が発生した際に、どのように対応するのかをあらかじめ整理しておくことも大切だと考えます。

同様の事故が小中学校で発生した場合には、児童・生徒の安全を最優先に、活動を一時中止するなど、周囲の安全確認や原因の確認を行うことが重要ではないでしょうか。

そこで、大竹市の小中学校において、施設や設備の安全管理について、どのようなマニュアルを整備しているのか、また、事故や危険な事象が発生した際の対応について、教職員にどのような情報共有や研修、説明を行っているのか、お伺いします。

13.

11番 小田上 尚典 議員

質問方式 一問一答

情報化推進計画の実施状況及び次期計画の策定について

情報基盤の再構築や内部事務の効率化など、施策の5本柱に基づき、若手職員によるプロ

ジェクトチームをはじめとする様々な取り組みが進められています。

本計画は令和6年3月に策定され今年度は計画期間の最終年度を迎えます。

計画の進捗状況、課題の整理・分析及び次期計画の策定に向けた考え方について伺います。

市役所の雰囲気づくりについて

市役所の雰囲気、来庁される市民の様子をどのように感じておられますか。

カスタマーハラスメント対策の中で接遇などカスハラを引き起こさない対応など必要だと思っています。さらに明るい市役所なればと思います。